

成人看護学看護過程論	3年・後期	1単位 15時間	教授 片貝智恵
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310683

1. 授業のねらい・概要

学生が3年次からの「成人看護学実習」を遂行するために、健康障害および機能障害をもつ成人に対する看護の実践に必要なアセスメント能力と、看護過程を展開する技術を身につける。

2. 学修の到達目標

- 看護過程の各要素（アセスメント・看護診断・看護計画・実施・評価）を述べることができる。（D-2）
- ゴードンの機能的健康パターン，NANDA看護診断について述べることができる。（D-2）
- 事例を通して，健康障害および機能障害をもつ患者のアセスメントができる。（D-2）
- アセスメントに基づいて関連図を作成できる。（D-2）
- アセスメントに基づいて，事例患者のニーズに沿った看護診断を抽出できる。（D-2）
- 事例患者のニーズに沿った看護計画を立案できる。（D-2）
- 糖尿病の病態と健康障害が，患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
- 糖尿病患者のニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）

3. 授業の進め方

テキストに基づく資料を用いた講義と個人ワークによる演習を中心に進める。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとしてグループワークを用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールによる学生と教職間での学習に関するコミュニケーションの機会。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	看護過程の理解	講義	予習：基礎看護学で学んだ看護過程（アセスメント・看護問題・看護計画・実施・評価）をテキストや授業資料で復習する。 復習：ゴードンの機能的健康パターン，関連図（全体像の描写），NANDA看護診断について整理する。	片貝智恵
2	糖尿病患者の看護	講義	予習：糖尿病の病態生理，検査と治療，看護についてテキストで読み，わからない言葉を調べる。 復習：授業で配布する練習問題を解き，間違えた問題の要点をまとめる。	片貝
3	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：情報収集	講義 演習	予習：1・2回の授業内容をテキストと授業資料を読んで，わからないことを復習する。 復習：情報収集を完成させる。	片貝

4	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：アセスメント ①ゴードンの機能的健康パターン1～4（グループワーク）	講義 演習	予習：ゴードンの機能的健康パターン1～4に関する仮診断を行う。 復習：課題レポートにゴードンの機能的健康パターン1～4のアセスメントを展開する。	片貝
5	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：アセスメント ②ゴードンの機能的健康パターン5～11（グループワーク）	講義 演習	予習：ゴードンの機能的健康パターン5～11に関する仮診断を行う。 復習：課題レポートにゴードンの機能的健康パターン5～11のアセスメントを展開する。	片貝
6	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：アセスメント ③関連図作成	講義 演習	予習：関連図（全体像の描写）をテキストで読み、わからないことを復習する。 復習：課題レポートの関連図を作成する。	片貝
7	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：看護計画①看護診断リスト作成	講義 演習	予習：看護計画をテキストで読み、わからないことを復習する。 復習：課題レポートの看護診断リストを作成する。	片貝
8	糖尿病患者の事例を用いた看護過程の展開：看護計画②定期試験	試験	予習：課題レポートの看護計画を作成する。 復習：試験で間違った問題を復習してまとめる。	片貝

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上出席した者）50％，課題レポート50％，平常点で総合的に評価する。

成績評価は、「2.学修の到達目標」に示した評価観点ごとに、ルーブリック評価とする。尚、ルーブリック評価に関する詳細は、第1回講義内で説明する。

定期試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭で提示する。

課題レポートの配点内訳は、課題①看護過程の展開（50％）とし、詳細（内容、締め切り日時、提出場所など）は、講義内で資料を提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 山下香枝子他（2022） 系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院

2) 任和子他（2022） 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド-ヘンダーソン・ゴードン・NANDAの枠組みによる（第2版）照林社

3) リンダJ.カルペニート=モイエ著 新道幸恵監訳（2023）看護診断ハンドブック（第12版）医学書院

参考文献：随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

授業計画の1回の授業範囲および事前事後学修（学修課題）について、最低90分の予習および最低90分の復習を行うこと。

「人体の構造と機能」「疾患の治療と看護」「看護過程論」などの授業で学習した知識を必要とする。

8. 受講上の留意事項

慢性期成人看護学実習の先修科目である。

授業中の私語や授業に関連しない行動は、平常点として評価対象とする。

授業時間開始後に、教室の入室および退出を無断で行うことは慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験終了・課題レポート提出後、口頭、資料、掲示またはメールで説明する。
講義時間以外に、随時、メールで問い合わせを受け付ける。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして、講義・演習を行う。